

令和 8年 8月20日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

広島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
神石インターナショナルスクール	広島県教育委員会	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の公表URL
神石インターナショナルスクール	https://jinis.jp/assessment/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表URL	学校関係者評価結果の公表URL
神石インターナショナルスクール	https://jinis.jp/assessment/	https://jinis.jp/assessment/

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

Parents'Week(学校公開)では、子供たちの普段の生活や学習を見てもらい機会と同時に学校の方針や子どもたちの進路について話し合う機会や説明会なども実施し、より保護者の学校に対する理解を深めている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は、日本初の小学校段階における全寮制のインターナショナルスクールとして、日本の学習指導要領を基盤としながら、英語及び国際的なカリキュラムを取り入れ、将来、国内外で活躍することのできるグローバル人材

の育成を目指している。

英語を一つの教科として学ぶだけでなく、理科、社会、算数等の一部を英語で学習するとともに、IPC（International Primary Curriculum）を活用した教科横断的な学習を進めている。IPCと学習指導要領の統合を進めるとともに、授業だけでなく、学校行事、校内掲示、学習環境、施設、教職員研修等を含め、学校全体でIPCの理念に基づいた教育環境の整備に取り組んできた。その成果として、令和7年11月末にICA（International Curriculum Association）よりIPC認定校として正式に認定された。

認定に向けた取組を通して、教職員が学習目標、教育方法、児童の学びの評価等について共通理解を深める機会が増え、学校全体として教育の方向性を共有する基盤が強化された。また、国際的な教育基準に照らして本校の教育実践を振り返ることで、JINISの教育の強みと今後改善すべき点をより明確にすることができた。

今年度は、IPC認定校として教育の質を継続的に維持・向上させるとともに、日本語と英語を用いた教育を単に併存させるのではなく、両言語が児童の学習や生活の中でどのような役割を担うのかを明確にするため、学校としてのLanguage Policy（言語方針）の整備についても検討を進めている。これにより、各教科における言語の使用手法や、児童の日本語及び英語の発達を学校全体でどのように支援するかについて、より体系的な方針を構築することを目指している。

今後の課題は、IPC認定を一つの到達点とするのではなく、認定校として求められる教育の質を継続的に維持・向上させることである。そのため、教育課程や学校の理念を特定の教職員の経験や力量だけに依存させることなく、教職員研修、新任教職員への導入研修、校内での役割分担や情報共有の仕組みをさらに充実させ、教職員の入れ替わりがあった場合にも教育の質を維持できる体制を構築していく必要がある。

また、本校は「英語を教える学校」ではなく、日本の教育課程を基盤とし、日本語と英語の双方を通して児童の学力、思考力、アイデンティティ及び国際性を育成するバイリンガルスクールである。この教育的特徴について、保護者や地域社会、国内外の教育関係者により分かりやすく発信し、理解を広げていくことも今後の重要な課題である。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

JINISでは、日本の学校教育法及び学習指導要領に示される教育の理念を踏まえ、自立した個人として主体的に考え、他者と協働しながら社会の中で行動することのできる児童の育成を重視している。

令和7年度は、学校生活や寮生活における児童への支援について、教職員間でより一貫した対応を行うため、Behaviour、Pastoral Care、Safeguarding等の観点から校内体制や役割分担の整理を進めている。児童の安全と安心を教育活動の基盤として位置付けるとともに、大人が共通した姿勢で児童に関わることによって、児童自身が適切な行動を考え、自律的に生活することのできる環境づくりを進めている。

さらに、本校が位置する神石高原町の豊かな自然環境を生かし、季節の変化や自然との関わりを日常的に経験することのできる教育環境を整えている。こうした体験は、学習指導要領が重視する「豊かな心」及び「健やかな体」の育成にもつながっており、児童が自然や地域社会との関係を意識しながら生活する態度を育てる機会となっている。

国際的な視野の育成については、多様な国籍、文化的背景、言語的背景を持つ教職員や児童が共に生活し、学ぶ環境そのものを教育資源として活用している。異なる価値観を単に知識として学ぶだけでなく、日常生活の中で互いの違いを理解し、対話し、折り合いをつけながら生活する経験を通して、多様性を尊重する姿勢を育成している。

これらの取組を通して、児童が日本人としての言語や文化的基盤、自らのアイデンティティを大切にしながら、異なる文化や価値観を持つ人々と協働し、国内外を問わず社会の形成に主体的に参画することのできる力を身につけることを目指している。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- カリキュラム及びバイリンガル教育の充実

課題：

IPCと学習指導要領を関連付けた教育実践が定着してきている一方、日本語と英語を各教科や学校生活の中でどのように活用するかについて、学校全体としてさらに明確にしていく必要がある。また、児童が英語を授業で学ぶ言語としてだけでなく、日常的なコミュニケーションの手段として自然に使用する機会を増やすことも課題である。

展望：

学習指導要領とIPCを関連付けたカリキュラムをさらに充実させるとともに、Language Policyの策定を進め、日本語と英語それぞれの役割を明確にする。両言語を学習、思考、生活の中で適切に活用できる環境を整え、児童の思考力・判断力・表現力及び言語運用能力を総合的に育成する。

● 学校文化及び児童支援体制の充実**課題：**

教職員の国籍、文化的背景、教育経験が多様である中で、児童への指導や支援について学校全体で一貫した対応を行うことが重要である。特に、Behaviour、Safeguarding、Pastoral Care、寮生活等について、教職員間で共通理解をさらに深める必要がある。

展望：

教員、寮担当職員その他のスタッフが、それぞれの役割を理解した上で連携し、児童への関わり方や期待する行動について共通した基準を持つ。研修や日常的な情報共有を通して、安全・安心を基盤とし、多様な文化や価値観を尊重するJINISとしての学校文化をさらに定着させる。

● 人材確保・育成及び組織体制の充実**課題：**

本校では、バイリンガル教育、IPC、全寮制教育、Safeguarding等、教職員に求められる知識や役割が幅広い。そのため、本校の教育理念や学校文化を十分に理解した人材を確保するとともに、新任教職員が速やかに学校のエデュケーション方針や実践方法を理解できる仕組みを整える必要がある。また、Academic、Boarding、Pastoral、Safeguarding等の各領域における責任と役割を明確にすることも重要である。

展望：

採用段階から本校の教育理念、教育課程、全寮制教育の特徴及び教職員に求める役割を明確に伝え、理念に共感する人材の確保を図る。採用後は、オンボーディング、研修、メンタリング等を体系的に実施するとともに、校内の役割と責任体制を明確にする。これにより、個々の教職員の経験に過度に依存せず、人員の入れ替わりがあっても教育の質を安定して維持できる組織づくりを進める。

● JINISの教育の特色に関する情報発信**課題：**

「インターナショナルスクール」という名称から、英語教育を中心とした学校として捉えられることがある。本校が目指す、日本の教育課程を基盤としながら、日本語と英語の双方を大切にしているバイリンガル教育について、学校外への理解をさらに広げる必要がある。

展望：

IPC認定校としての教育実践、Language Policy、バイリンガル教育及び全寮制教育の特色について、保護者、地域社会及び国内外の教育関係者に分かりやすく発信する。日本の文化的・教育的基盤を大切にしながら、国際社会で主体的に活躍できる児童を育成する学校として、本校の教育的特色をより明確に示していく。